

1. 評価結果概要表

作成日 2009年9月7日

【評価実施概要】

事業所番号	2670600416		
法人名	ヤマト株式会社		
事業所名	ニングルの森 北白川		
所在地	〒606-8406 京都市左京区浄土寺石橋町69 (電 話) 075-762-0920		
評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成21年2月23日	評価確定日	平成21年9月10日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	人	常勤 人(兼務 人), 非常勤 人, 常勤換	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	3 階建ての 1階～ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(12万円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食 270 円 夕食 700 円 または1日当たり 1670 円	昼食 500 円 おやつ 200 円	

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低 79 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団テイ医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

有名な銀閣寺近くの哲学の道に面したグループホームであり、春は疎水べりに桜が満開、6月には蛍が乱舞し、8月の大文字の送り火を間近に見るという環境である。観光を兼ねて大勢で面会に来る家族が多く、利用者も気候が良ければ土産物屋や茶店で「おたべ」を食べたり、英語の得意な利用者は外人観光客を案内したり等々、このグループホームならではの立地を生かした利用者の生活が実現している。また事業所からの働きかけにより利用者の生活習慣にそった道具や家具が持ち込まれ、居室が個性的である。家族には毎月手書きのたよりと写真を郵送しており、利用者の元同僚にも送られている。協力医が往診してくれており、その際にカンファレンス会議にも参加してくれている。今後は認知症についてのケアのあり方や介護観について、管理者と職員全員が理解を深め、技術を上げることが期待される。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価の際に指摘された点として、「地域とのつきあい」の改善、「運営推進会議に地域からの参加を求めること」の2点について、改善が行われている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は管理者、ケアマネジャー、主任等が行った。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域の人の参加がなく働きかけを続けており、町内会長、交通安全本部委員が参加されるようになった。その他に家族、地域包括支援センター職員が参加し、会議が行われ、記録が残されている。事業所の地下スペースを地域の人に使ってもらうような話し合いや防災訓練のことなど、積極的な意見交換が行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会頻度はかなり高く、また正月や盆に自宅に利用者をつれて帰る家族もいる。ホームでのクリスマス会やバーベキューの行事、琵琶湖温泉への日帰り旅行などに家族を招待し、家族が参加され、運営を手伝っている。先般利用者が発足し、家族がグループホームの運営について、積極的に協力してくれる体制になっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地蔵盆や運動会に参加するとともに、設営や準備、後片付けなどを職員が手伝っている。地域のお祭りのみこし行列を見て楽しんでいる。地域住民をクリスマス会やバーベキューなどのグループホームの行事に招待したが、参加がなかった。今年は地下のコミュニティルームを地域の会議やサークルに開放したいと話合いを進めている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「自然・地域と統合した人間として幸せな生活」であり、玄関から入ったところのロビーに額に入れて掲げている。これは法人の理念であり、当事業所の理念である。当事業所としては今年は地域との連携を進めたいという目標をもっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は業務のなかで常に話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地藏盆や運動会に参加するとともに、設営や準備、後片付けなどを職員が手伝っている。地域のお祭りのみこし行列を見て楽しんでいる。地域住民をクリスマス会やバーベキューなどのグループホームの行事に招待したが、参加がなかった。今年は地下のコミュニティルームを地域の会議やサークルに開放したいと話し合いを進めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者、ケアマネジャー、主任等が行った。前回の評価の際に指摘された点として、「地域とのつきあい」の改善、「運営推進会議に地域からの参加を求めること」の2点について、改善が行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の人の参加が無く働きかけを続けており、町内会長、交通安全本部委員が参加されるようになった。その他に家族、地域包括支援センター職員が参加し、会議が行われ、記録が残されている。事業所の地下スペースを地域の人に使うてもらうような話し合いや防災訓練のことなど、積極的な意見交換が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、区役所にてかけて行って情報交換している。	○	グループホームの専門性を地域貢献するような行事を企画し、市や区のバックアップによって実施することが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月職員が手書きで写真入りの「たより」を送っており、非常に喜ばれている。遠くにいる別の家族にコピーして送っているという家族や利用者の昔の同僚に送っている家族もいる。広報誌は年4回発行され、写真が多くて親しみやすいものである。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会頻度はかなり高く、また正月や盆に自宅に利用者をつれて帰る家族もいる。ホームでのクリスマス会やバーベキューの行事、琵琶湖温泉への日帰り旅行などに家族を招待し、家族が参加され、運営を手伝っている。先般利用者が発足し、家族がグループホームの運営について、積極的に協力してくれる体制になっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の法人内異動は基本的に行われない。職員採用は地元優先で行っている。離職を防ぐ工夫としては、シフトの配慮や希望休に応じることで行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画はないが、認知症ケア、感染症対応、緊急対応等に参加しており、レポートが残され、伝達研修をしている。新任職員には日勤帯、夜勤帯いずれにもベテラン職員がついて、実践の夜勤業務を指導している。	○	職員には系統的な研修計画を立て、段階を追って習得していけるようにすること、さらに職員の向上心を育てるために一人ひとりの目標を話し合い、達成状況の管理をすること、グループホームではとくに認知症についての研修に力を入れることなどが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームには見学についており、地域のケアマネジャーの見学には対応している。職員が他のグループホームを見学し、交流することは行われていない。	○	職員レベルで他のグループホームを見学したり、その職員と気軽に交流することが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の前には本人と家族に見学に来てもらっており、2時間くらいおられる間に、利用者には職員に馴染んでもらうことと、職員は利用者の様子を知ることになっている。利用が始まってからも家族には面会や一時帰宅をお願いしている。また利用者の生活習慣にそったものを持ち込んでもらい、部屋のレイアウトを家族にお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
15	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員の関係は、共に生活するものと考えており、支援なくとも良い場面を多くつくるようにしている。利用者が自然にできることを増やし、職員から「ありがとう」ということが増えていくようにしている。上司から叱責された職員は利用者から慰められて、家族のように感じている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の情報は介護サービスの利用状況、医療情報、薬情報その他、家族構成や生活歴等を収集し、記録に残している。利用者や家族の意向を聴いているが、簡単である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用が始まると、ケアマネジャーがフェイスシートとアセスメントシートの情報を収集し、記録している。利用者や家族の意向を踏まえて仮の介護計画を作成し、状況を見てカンファレンス会議で介護計画の見直しを検討している。	○	介護計画は上記の情報と生活歴、利用者の趣味・嗜好等を反映したものであり、楽しく生きがいの持てる生活になるような、プラス志向の内容であること、利用者一人ひとりに個別・具体的な介護計画であることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者のケース記録は、食事、水分、排泄、入浴、バイタル等と共に、時間をおって利用者の行動を記録しているが、介護計画の項目にそったものではない。介護計画の評価が記録されていない。カンファレンス会議の記録は残されているが、介護計画の項目にそったものではない。	○	利用者のケース記録は介護計画の項目にそって、ケアを実施したかどうか、実施した結果の利用者の表情や発言、実施できなかったときはその理由等を書くと共に、介護計画の評価をすることが望まれる。カンファレンス会議も介護計画の項目について行うことが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別外出は行っており、個別の買い物同行もしている。理容や美容は訪問美容を利用している。ホーム内で利用者が希望すればお化粧品やマニキュア等を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診に同行しており、サマリー交換等、医師との情報交換をしている。内科・外科の協力医が2週間ごとに往診してくれている。認知症に関しては家族がつれて受診している。事業所として認知症専門医との連携が期待される。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「認知症共同生活介護事業における看取りに関する指針」を定めており、そのなかで看取りの定義、看取り体制、看取り介護の環境整備、看取り介護の実施とその内容等々を定めている。職員は最期までお世話したい気持ちをもっている。利用者や家族の意向確認、職員への研修実施が期待される。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室は鍵をかけることができ、自己管理可能な利用者は鍵を自身で所有し、使用している。トイレは1階と2階に2個ずつあるが、いずれも内部から鍵をかけることができない。居間で職員や利用者がおおぜい居る時間帯に、職員同士が利用者の状態を話し合っており、聞こえる状況があった。	○	認知症でも人間としての羞恥心やプライドはあり、トイレの使用も誰もがしている使い方ができるように、すなわち、内部から鍵をかけることができるようにすることが求められる。また職員同士の情報交換は利用者のいない場所で行うことが求められる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の日課はあるが、起床の遅い人、就寝の遅い人など、自由に生活している。とくに朝食はひとりずつ違う時間帯になっている。入浴の時間の希望を聞くことが期待される。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の管理栄養士が1週間分の献立を立てており、それにしたがって職員が食材の買い物をしている。現代風のメニューが多い。下ごしらえや米を研ぐなどを利用者は行っている。外食は家族も誘って年2回おこなっている。グループホームという共同生活の実現のため、職員もともに食事をし、食卓での会話を盛り上げることが期待される。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は地階にあり、2階の利用者はかなり急な階段を下りて行くことになる。職員1人が2人の利用者をお連れして入浴介助している。時間帯は午前中が多く、夜間は対応していない。夕方に足浴している。	○	ハードの問題とはいえ、入浴好きの日本民族性に配慮して、1人がゆっくりと入浴できる工夫が求められる。また毎日入りたい希望にも対応できる工夫が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室の掃除、洗濯物たたみ、プランターの花に水やり等の家事を利用者は分担している。歌を歌う、塗り絵、貼り絵、カレンダーづくり、縫い物や編み物、おやつ作り等を利用者は楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	哲学の道に隣接しているという立地の好条件を生かして、気候が良くお天気が良ければ毎日のように散歩に出かける。利用者は桜を愛で、近くのお地藏さまを拝む。銀閣寺参道の茶店で「おたべ」を食べたり、お土産物やに寄って目を楽しませる。初詣、お弁当をもつての花見、紅葉狩り等季節ごとのお出かけをしている。希望があれば何人かでドライブに出かける。琵琶湖グランドホテルへの日帰り旅行は利用者に好評だった。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドアは施錠されていないが、地下へ降りるドア、1階の廊下へのドア等、すべて施錠されている。また屋上へのドアも施錠されている。	○	認知症への理解を深め、日中は玄関や内部のドア等、すべて鍵をかけない工夫が求められる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、感知器、備蓄を備え、防火管理者の設定があり、消防計画を作成している。避難訓練は年2回実施されているが、夜間想定避難訓練が期待される。災害時の地域との連携については運営推進会議で話し合われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの利用者の食事摂取量と水分摂取量は記録が残されている。献立のカロリー値と栄養バランスについても栄養士の記録を残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入り口は家庭的な玄関であり、下駄箱があり、小さなホールにはソファがあり、屏風の前に花が生けられている。左手に廊下が伸びており、居室が並んでいる。つきあたりがトイレである。2階の居間兼台所はかなり狭いが、食卓の横にホットカーペットを敷き、ソファを置き、利用者がくつろげるようにしている。女子寮の改築のため、廊下や壁、階段等が殺風景であるのは否めない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋間で、低床ベッド、じゅうたん、4段の整理タンス等が備え付けられており、利用者は使い慣れたものを持ち込んでいる。座りやすい椅子、仏壇、ホットカーペット、カーテンで居心地よくし、花瓶に花を生け、時計やテレビ、ぬいぐるみを持ち込み、自分が描いた絵を飾り、個性的にしている利用者もいる。		